

AXM 12A



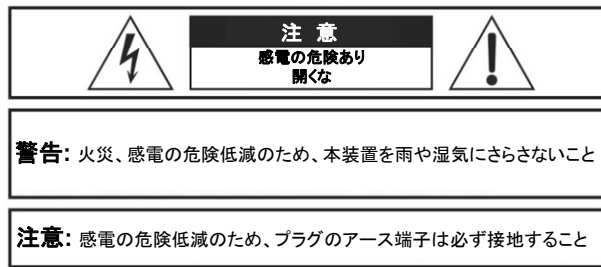
ユーザーマニュアル

 **DYNACORD**
GERMAN ENGINEERING EXCELLENCE

目次

1	安全に関する情報	4
2	はじめに	6
2.1	パッケージ内容と保証	6
3	製品概要	7
4	設置	8
4.1	フロアモニター	8
4.2	三脚	8
5	接続	9
5.1	メイン入力 (MAINS IN)	9
5.2	オーディオ入力	9
5.2.1	マイクロホン/ライン入力	9
5.2.2	Aux 入力	10
5.3	オーディオ出力	10
5.3.1	Thru 出力	10
5.3.2	Mix 出力	10
6	設定	11
6.1	オーディオレベル	11
6.2	ディスプレイ	11
6.2.1	ホーム画面	11
6.2.2	メニュー	12
6.2.3	機能	16
7	操作	17
7.1	クイックスタート	17
8	トラブルシューティング	19
8.1	音響フィードバックの回避	19
8.2	溶断したヒューズの交換	20
9	技術データ	21
9.1	ブロック図	23
9.2	周波数特性	24
9.3	指向性	25
9.4	寸法	27
10	付録	28
10.1	システム例	28

1 安全に関する情報



危険!

三角形内に稲妻の記号は、装置内に高電圧や、絶縁されていない配線・接点があり、接触による致命的な感電の危険性があることを注意喚起しています。



警告!

三角形内に感嘆符の記号は、本装置に関する重要な操作やサービスの指示であることを示しています。

1. 安全に関する情報をお読みください。
2. 安全に関する情報は、安全な場所に保管してください。
3. すべての警告に注意してください。
4. すべての指示を順守してください。
5. 水の近くで本装置を操作しないでください。
6. 本装置は乾いた布以外で清掃しないでください。
7. 換気スロットを遮断しないでください。本装置を設置する際は、必ずメーカーの指示を参照してください。
8. 本装置は、ヒーター、オーブンなど熱源の近くに設置しないでください。
9. 注: 本装置を使用する場合は、必ずアース端子付きのコンセントに接続してください。付属の電源ケーブルの安全用アース端子機能を無効にしないでください。付属のケーブルのプラグがコンセントに合わない場合は、電気技術者に問い合わせてください。
10. 電源ケーブルが踏まれないように注意してください。とくに、装置のコネクターやプラグの近くで電源ケーブルが絡まないよう注意してください。
11. メーカー承認済みのアクセサリ、拡張製品のみを使用してください。
12. 本装置を避難システムの一部として使用する場合を除き、落雷の危険がある場合や本装置を長期間使用しない場合は、本装置の電源プラグを抜いてください。
13. すべてのサービス作業、修理は、訓練を受けたカスタマーサービス技術者が行うようにしてください。電源ケーブルやプラグが損傷した場合、装置内に液体や異物が侵入した場合、本装置を雨中で使用した場合や濡らした場合、本装置が落下した場合、本装置が正しく機能しなくなった場合は、直ちにサービス作業を行う必要があります。
14. 装置内に水滴や噴霧が侵入しないよう注意してください。花瓶や器など、液体の入った物体を本装置の上に置かないでください。
15. 本装置への通電を完全に止める必要がある場合は、プラグをコンセントから抜いてください。

16. 本装置は、プラグに自由に手が届く場所に設置してください。
17. 火の付いたロウソクなど、裸火を本装置の上に置かないでください。
18. 本装置は安全等級Iの装置であり、アース端子付きのコンセントに接続する必要があります。

**注意!**

本装置をカート、スタンド、ブラケット、テーブルと組み合わせて使用する場合は、メーカーが承認した物のみを使用してください。本装置をカートを使用して移動する場合は、輸送する機材やカート自体が転倒したり、怪我や器物損傷の原因にならないよう注意してください。

重要なサービス情報**注意!**

このサービス情報は、資格を持つサービス要員のみが使用します。感電の危険を避けるため、資格がない場合は、取扱説明書に記載されていないメンテナンス作業を行わないでください。すべてのサービス作業、修理は、訓練を受けたカスタマーサービス技術者が行うようにしてください。

1. 本装置の修理作業は、EN 60065 (VDE 0860) に定められている安全基準に則って行ってください。
2. 本装置を開いた状態で主電源に接続して動作させる場合は、必ず絶縁変圧器を使用してください。
3. アップグレード、主電源の切り替え、その他の変更を行う前に、本装置への通電を停止してください。
4. 人間が接触する可能性のある金属部分 (金属ハウジングなど) と通電部分の間、主電極間は、必ず3 mm以上離してください。
5. 通電部分と主電源に接続されていない回路部分 (セカンダリ) は、必ず6 mm以上離してください。
6. 回路図に安全記号で示されている特殊部品 (注) は、必ず元と同じパーツと交換してください。
7. 回路を許可なく変更することは禁じられています。
8. 関連業界団体による、修理場所における保護対策は必ず順守してください。これには、作業環境の特性と構造も含まれます。
9. MOS部品を取り扱う際は、ガイドラインを順守してください。

**危険!**

安全に注意すべき部品 (元と同じパーツと交換すること)

**古くなった電気・電子機器**

使用できなくなった電気・電子機器は、分別収集の上、(WEEE指令に従って) 環境に適合したりサイクルを行う必要があります。

古くなった電気・電子装置を廃棄する場合は、当該国の返却・収集システムを利用してください。

2 はじめに

AXM 12Aは、簡単に設定して、すぐに使い始めることができます。以降のページの手順に従って設定を行ってください。



注意!

AXM 12Aをコンセントに接続する前に、本マニュアルのすべての指示と、4ページの安全に関する情報をお読みください。

2.1

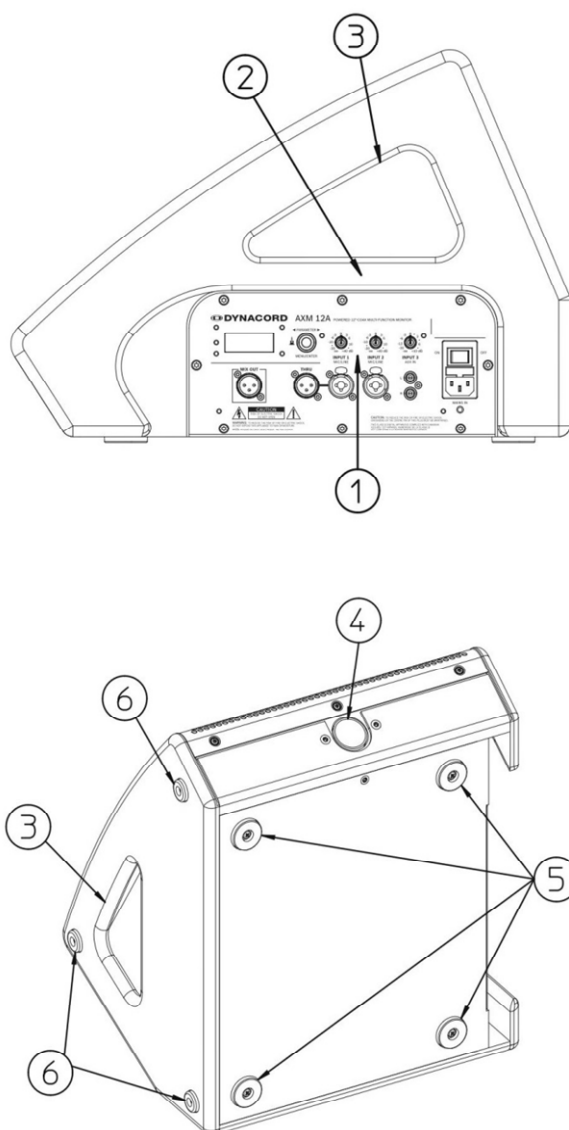
パッケージ内容と保証

数量	内容
1	AXM 12A 本体
1	電源コード
1	ユーザーマニュアル

保証

保証については、http://www.boschsecurity-jp.net/Pro_Audio/ の製品保証規定ページをご覧ください。

3 製品概要



番号	説明
1	操作/接続パネル
2	バーキャリアハンドル
3	埋め込みグリップ
4	ポールマウントアダプター
5	ゴム底脚
6	保護バンパー

4 設置

4.1 フロアモニター

DYNACORD AXM 12Aをフロアモニターとして使用する場合は、次の点に注意してください。

- 水平で、安定した、堅固で、安全な場所に置いてください。
- パフォーマー、製作クルー、観客が脚を引っかけないようにケーブルを配線してください。ケーブルはできる限り、ワイヤータイやテープで固定してください。

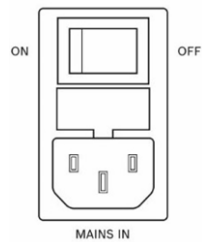
4.2 三脚

AXM 12Aには、35 mmのポールマウントアダプターが組み込まれており、三脚やサブウーファー上への設置が可能です。ご使用の際は、以下の点にご注意ください。

- スピーカースタンドの仕様書を確認して、スピーカーの重量を支えられることを確認してください。
- スピーカースタンドは平らで安定した場所に置き、スタンドの脚は完全に伸ばしてください。スタンドを本来より長く伸ばしたり、改造したりしないでください。
- パフォーマー、製作クルー、観客がスタンドやケーブルに脚を引っかけたり、スピーカーシステムをひっくり返したりしないように、ケーブルの配線やスタンドの位置決めを行ってください。ケーブルはできる限り、ワイヤータイやテープで固定してください。
- シングルスピーカー用のスタンドに、複数台のスピーカーをマウントしないでください。
- スピーカーの重量を一人で安全に扱える自信がない限り、スピーカーは複数人で取り扱ってください。

5 接続

5.1 メイン入力 (MAINS IN)



AXM 12Aへの電力供給は、MAINS INソケットを使用して行います。付属の電源コードのみを使用してください。名板に記載されている要件に対応する電力ネットワーク以外にスピーカーを接続しないでください。

電源スイッチを使用して、電源のオン/オフを切り替えることができます。電源がオンになると、液晶ディスプレイ画面が点灯します。

5.2 オーディオ入力

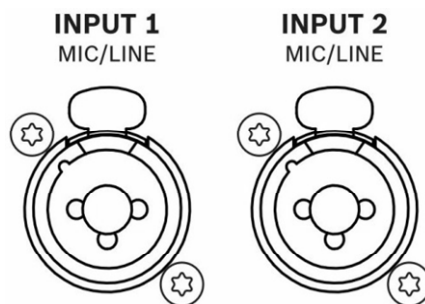


注意!

音量レベルのコントロール

接続や切断を行う前に、対応するレベルコントロールを反時計方向に、-∞の位置まで回してください。

5.2.1 マイクロホン/ライン入力

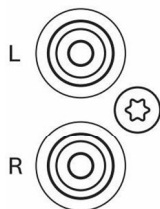


電子的にバランス調整されたINPUT 1/2 MIC/LINEには、ミキサーなどのラインレベル信号ソースかマイクを接続します。コンデンサーマイクロホンを使用するときは、ファンタム電源を有効にできます (12ページの「メニュー」のメニュー項目「Phantom 1 or 2」を参照)。

接続には、TRSまたはXLR型プラグを使用します。高周波ノイズ等の影響を避けるため、可能な限りバランス接続を行ってください

5.2.2

Aux 入力

INPUT 3
AUX IN

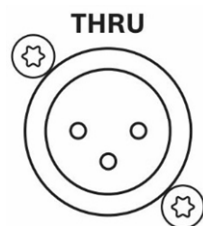
ステレオRCA型INPUT 3 AUX INには、CDプレーヤーやMP3プレーヤーなどのソースを接続します。この入力の使用方法については、12ページの「メニュー」のメニュー項目「MIX OUT」を参照してください。

5.3

オーディオ出力

5.3.1

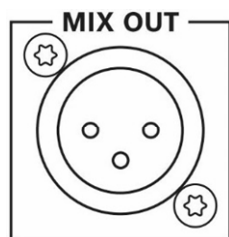
Thru 出力



THRU出力ソケットはINPUT 1と並列に接続されています。フェーダー前の入力信号を、追加のアンプ内蔵スピーカーやサブウーファーに音声信号を送る場合に使用します。

5.3.2

Mix 出力

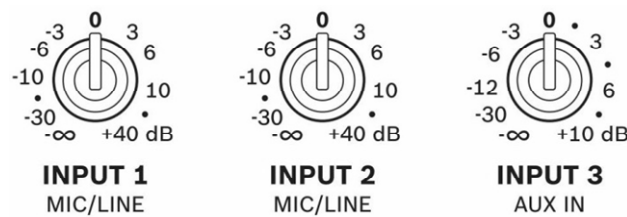


INPUT 1、INPUT 2、INPUT 3のフェーダー後のオーディオ信号を合成して、MIX OUTに通します。各入力信号の比率は、INPUT 1、2、3のレベルコントロールを調整することによって変化します。この機能により、AXM 12Aを簡易的な3チャンネルミキサーとして使用し、ミックスをMIX OUTソケットを通じて別のスピーカーに送ることができます。

この出力は、GND-SENSINGテクノロジーを使用して設計されており、出力ソケットの特殊なピン配置により、均衡のとれた信号伝達のあらゆる利点を提供するだけでなく、モノラルプラグも問題なく接続することができます。

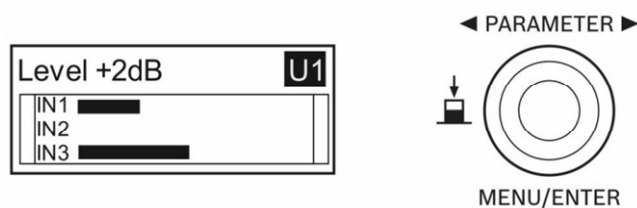
6 設定

6.1 オーディオレベル



INPUT 1、INPUT 2コントロールを使用して、MIC/LINE入力の感度を調整することができます。これらをコントロールし、DSP内部に送る信号レベルを任意に調整してください。INPUT 3コントロールは、RCA入力AUX INに入力された信号レベルを調整します。

6.2 ディスプレイ



6.2.1 ホーム画面

ホーム画面は、AXM 12Aの電源をオンにし、数秒経過した後に表示されます。

コントロール

MENU/ENTERロータリーエンコーダーを回して、レベル設定を編集できます。MENU/ENTERロータリーエンコーダーを押すと、メニューに入ります (12ページの「メニュー」を参照)。

減光モード

このメニューでは、ディスプレイが減光するまでの時間を設定することができます。MENU/ENTERロータリーエンコーダーを操作しないまま設定時間が過ぎると、ディスプレイが減光モードに入ります。減光モードでは、ディスプレイの明るさがメニューで設定した「減光」値まで低下します。予期しない音量の変更を防止するため、MENU/ENTERロータリーエンコーダーを回して編集したレベル設定は、減光モード中はロックされます。MENU/ENTERロータリーエンコーダーを一度押すと、減光モードが終了します。

表示

ホーム画面の表示

- 現在のレベル設定 (例、+2dBなど)
- 選択されている既定、またはユーザー設定の番号 (例、U1)
- 3つのオーディオ入力のレベルメーター

設定が編集されている場合、設定番号の横に “E” (Edited) と表示されます。

現在の入力レベル、IN1、IN2、IN3のレベルメーターに続く表示

- “PK” (Peak): オーディオ入力の信号レベルが6dBから最大入力レベルの間になると表示されます。
- “LIMIT”: 内蔵パワーアンプのリミッターが動作すると表示されます。

入力のファンタム電源が有効になると、レベルメーターIN1またはIN2に“P”と表示されます。メニュー項目MIX OUTがRに設定されると (12ページの「メニュー」を参照)、レベルメーターIN3に“S” (Stereo) と表示されます。

6.2.2

メニュー

メニューでは、MENU/ENTERロータリーエンコーダーを使用して、パラメーター間の移動、選択、編集を行います。MENU/ENTERロータリーエンコーダーを回すと、メニューのカーソルが左右に移動します。強調表示されているメニュー項目を選択または実行するには、MENU/ENTERロータリーエンコーダーを押します。メニュー項目が強調表示されていた場合は、対応するダイアログが開きます。パラメーターが強調表示されていた場合は、フォントが反転表示され、MENU/ENTERロータリーエンコーダーを回して編集することができます。MENU/ENTERロータリーエンコーダーをもう一度押すと、編集したパラメーター値が適用されます。

メニュー項目	デフォルト値	範囲	説明
Exit	-	-	ホーム画面に戻ります。
Function	Monitor1	Monitor1/2/3、 GuitarCab、 MAIN PA、 TOP + SUB	AXM 12Aの使用目的を選択します。選択に応じて、スピーカーのサウンドの種類が調整されます。詳細については、16ページの「機能」を参照してください。
Hi EQ	0 dB	-10～+10 dB	高い周波数特性を設定します。
Mid Gain	0 dB	-10～+10 dB	ミッドピークフィルターのゲインを設定します。
Mid Freq	1,000 Hz	70～12000 Hz	ミッドピークフィルターの中心周波数を設定します。
Lo EQ	0 dB	-10～+10 dB	低い周波数特性を設定します。
LoCut	Off	Off、 50～200 Hz	ローカットフィルターを設定します。ローカットフィルターは、設定した周波数特性より低い帯域をカットします。
Feedback	Off	Off、 70～10000 Hz	フィードバックフィルターを設定します。フィードバックフィルターは、非常に帯域が狭いノッチフィルターで、音響フィードバックの影響を非常に受けやすい範囲でのみ有効になります。フィードバックフィルターの使用法については、19ページの「音響フィードバックの回避」を参照してください。

メニュー項目	デフォルト値	範囲	説明
Phantom 1 or 2	Off	Off、On	Phantom 1 or 2メニューでは、適切なコンデンサーマイクrohンの使用時に音声INPUT 1または2のファンタム電源を有効にすることができます。
MIX OUT	L+R	L+R、R	INPUT 3 AUX INのどの信号をMIX OUTから出力するか、どの信号をスピーカーから出力するかを選択します。 • L+R: INPUT 3の左右の信号を合成します。合成信号は、MIX OUTの出力になり、スピーカーから出力されます。 • R: INPUT 3の右信号のみがMIX OUTの出力になります。スピーカーは、左信号のみを出力します。 MIX OUTの各種用途の詳細については、28ページの「システム例」を参照してください。
Delay	Off	Off、0.1～100.0 m	出力信号を遅延させます。例えば、それぞれのスピーカーの距離が異なる場合に補正を行います。
Dim Time	30 sec	10～60秒	一定時間、操作を行わなかった場合の液晶ディスプレイ画面の減光を設定します。減光モードを終了するには、エンコーダーを押します。
Dim Bright	50%	0～100%	減光モードにおける、液晶ディスプレイ画面の明るさを設定します。

メニュー項目	デフォルト値	範囲	説明
Contrast	0	-10～+10	液晶ディスプレイ画面の視認度を増減します。
Load Settings		F1～F6、 U1～U5	6つの工場出荷時設定、または、5つのユーザー設定のうちのひとつを読み込みます。
Save Settings		U1～U5	現在の設定を、5つのユーザーメモリのどれかに保存することができます。ユーザー設定には、任意の名前を付けることができます。
Factory Reset	-	-	スピーカーを工場出荷時の設定に戻します。すべてのユーザー設定が削除されます。
Info	-	-	システムモデル、ファームウェアバージョンに関する情報を表示します。
Exit	-	-	ホーム画面に戻ります。

表6.1: 液晶ディスプレイ画面に表示されるメニュー

6.2.3 機能

AXM 12Aのメニューから選択できる機能 (工場出荷時設定) について説明します。

プリセット 番号	名前	説明
F1	Monitor 1	フラットな周波数特性を有するフロアモニターとしての使用に適しています。
F2	Monitor 2	大音量の音が飛んでいる環境でのフロアモニター使用に適しています。特定の周波数を強調して、ボーカルやリード楽器を際立たせます。
F3	Monitor 3	AXM 12Aを2台設置し、使用する際に適しています。正面に2台のAXM 12Aを置いて使用すると、非線形な周波数レスポンスが引き出されてしまいますが、プリセットにてこのような音響的なカップリング効果を補正します。
F4	GuitarCab	ギターモニターとしての使用に適しています。4 x 12 インチキャビネットをエミュレートする内蔵スピーカーシミュレーションにより、ギターアンプ/マルチエフェクタプロセッサをAXM 12Aに直接接続することができます。
F5	MAIN PA	AXM 12AをフルレンジPAスピーカーとして使用する場合、この機能を選択します。
F6	TOP + SUB	AXM 12Aを、パワードサブウーファーと組み合わせてPAスピーカーとして使用する場合に、ハイパスフィルターを有効にします。

7 操作

7.1 クイックスタート

注意!



極めて高い音響出力

AXM 12Aの電源をオンにする前に、レベルコントロールが反時計方向にいっぱいまで回され、 $-\infty$ の位置にあることを確認してください。そうでない場合、とくに、接続しているオーディオソースが再生または演奏中の場合、極めて高い音響出力が発生することがあります。マイクフォンを接続している場合は、音響フィードバックが発生するおそれがあり、とくに危険です。

AXM 12Aの入力セクションでは、3つのオーディオ信号ソースを接続し、ミキシングすることができます。

- INPUT 1 MIC/LINE
- INPUT 2 MIC/LINE
- INPUT 3 AUX IN

ホーム画面に表示されるレベル設定を0 dBに設定するには、MENU/ENTERロータリーエンコーダーを押します。

MIC/LINE

1. オーディオ信号ソースを接続する前に、INPUT 1、2コントロールを反時計方向にいっぱいまで回し、完全に下げてください（反時計方向）。
2. XLR型ケーブルを使用してマイクロホン、または、1/4インチフォンプラグを使用してラインレベルオーディオ信号ソース（ミキサー、キーボードなど）をAXM 12AのMIC/LINE入力に接続します。
3. オーディオソースのスイッチをオンにするか、マイクロホンのスイッチをオンにしてマイクテストを行います。
4. 希望の音量に達するまで、INPUT 1、2コントロールをゆっくりと上げていきます。



注意!

レベル設定を上げすぎると、音響フィードバックが発生することがあります。INPUT 1、2コントロールの調整は、注意深く行ってください。

5. Hi、Mid、Loメニュー項目を使用して、サウンドを音響条件に適合させます。フィードバックのスレッシュホールドに注意してください。変更後、フィードバックノイズに気付いた場合は、そのコントロールの設定を下げるか、フィードバックフィルターを有効にします。詳細については、12ページの「メニュー」、または、19ページの「音響フィードバックの回避」を参照してください。

AUX IN

1. オーディオ信号ソースを接続する前に、INPUT 3コントロールを反時計方向にいっぱいまで回し、完全に下げてください。
2. RCAタイプのケーブルを使用して、オーディオ信号ソース（CD/MP3プレーヤーなど）をAXM 12AのAUX INに接続します。
3. オーディオソースのスイッチをオンにして、希望の音量に達するまでINPUT 3コントロールをゆっくりと上げます。
4. Hi、Mid、Loメニュー項目を使用して、サウンドを音響条件に適合させます。

8 トラブルシューティング

8.1 音響フィードバックの回避

システムの音響フィードバックの感度は、環境や状況に左右されます。フィードバックフィルターを有効にする前に、以下の点に注意してフィードバックを回避してください。

フィードバック回避の成功事例

1. メインスピーカーをマイクロホンの後ろに置かないでください。
2. 未使用のマイクロホンのスイッチはオフにしてください。
3. モニタースピーカーを置く際には、マイクロホンの極性パターンや特性の違いに注意してください。
4. モニターシステムの音量を必要以上に大きくしないでください。
5. モニターミックスに含めるチャンネルの過度なイコライゼーションは避けてください。
6. マイクロホンの「ふるまい」は、マイクの前に誰が立つかによって変化することを頭に留めておいてください。
7. マイクロホンは音源にできる限り直線上の位置に置いてください。

フィードバックフィルターの使用 (ノッチフィルター)

上記の注意を考慮しても、モニターシステムの音響出力が十分でないと感じる場合は、最も大きなフィードバックを発生する傾向のある周波数を抑えることもできます。

特定の周波数の抑制は、以下の手順で行います。

1. INPUT 1、2レベルをフィードバックが発生する限度まで上げます。かすかなハウリング音がシステムから発生します。
2. メニュー項目「Feedback」を選択します。デフォルトでは、フィードバックフィルターは無効（「Off」）です。
3. ロータリーエンコーダーを回してフィードバックフィルターをOnにして、フィルターをこの「音」が消える周波数に設定します。

フィードバックフィルターは、対応する周波数帯のレベルを約10 dB減衰させます。フィルリングされる帯域は非常に狭いため、モニターシステムの音の変化はほとんど知覚できません。

**注意!**

フィードバックの限界近くでシステムを動作させる場合は、十分に注意してください。不用意な操作により、高い音圧レベルでフィードバックノイズが発生し、スピーカーシステムだけでなく、人間の耳に深刻な損傷を与えることがあります。

8.2**溶断したヒューズの交換**

AXM 12Aの電源をオフにしてメインプラグを抜きます。メインソケットの横にあるカバーを開き、溶断したヒューズを交換します。使用できるヒューズのタイプは、5×20 mm、250 V、4 Aのみです。

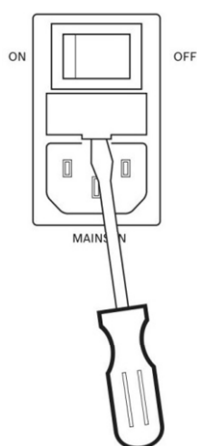


図8.1: マイナスドライバーを使用してヒューズカバーを開く

**警告!**

回路の保護のため、設計上定められている容量より大きいヒューズは使用しないでください。

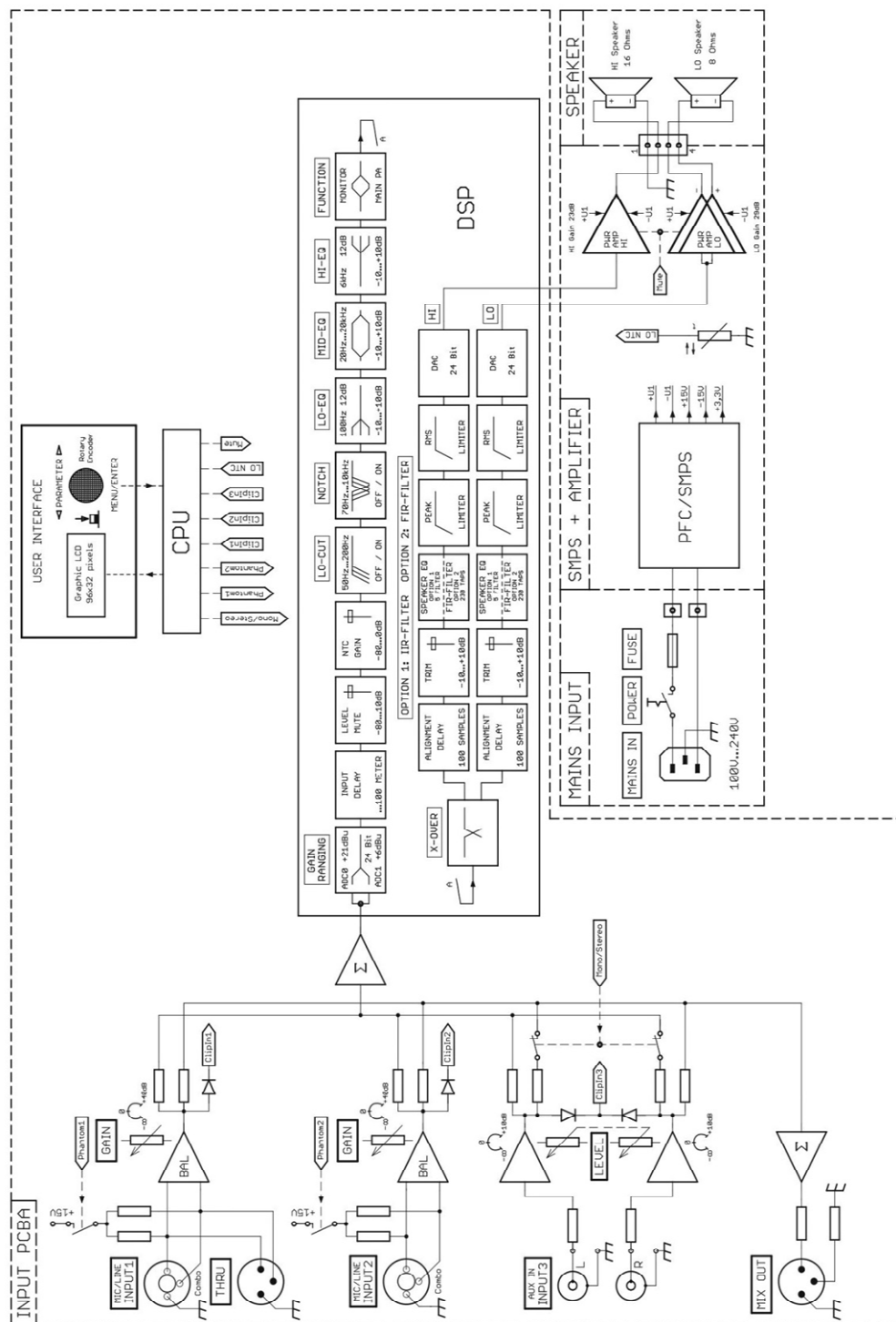
9 技術データ

AXM 12A の説明	多機能用途に対応するパワードモニター スピーカー
最大アンプ出力性能、IHF-A	520 W
低域アンプ出力	360 W IHF-A、260 W RMS
中高域アンプ出力	160 W IHF-A、75 W RMS
最大出力音圧レベル (SPL、1 m)	128 dB (計算値)
周波数特性 (-10 dB ダウンポイント)	50~20000 Hz
公称指向角度 (水平×垂直)	90°×90°
クロスオーバー周波数	1.6 kHz
トランスデューサー	DCX 123000: 軽量のネオディミウムコンプレ ッションドライバーを搭載した 12 インチ/1.75 インチ 2 ウェイ同軸トランスデューサー
オーディオソケット	
・ 入力	モノラル XLR/ジャックソケット (MIC/LINE)、 切り替え可能なファンタム電源 (+15 V)×2 ステレオ RCA (AUX IN)×1
・ 出力	XLR THRU (MIC/LINE 1 と並列)×1 XLR MIX OUT×1
イコライザー	
・ ローシェルフILTER	±10 dB / 60 Hz
・ ミッドピークFILTER	±10 dB / 70~12000 Hz
・ ハイシェルフILTER	±10 dB / 12 kHz
FILTER	
・ ローカットFILTER	f = 50-200 Hz、12 dB/oct.
・ フィードバックFILTER	70~10000 Hz、ノッチ、-10 dB
マスターディレイ	0~100 m

設定	5つの出荷時プリセット、 5つのユーザー設定
ディスプレイ	ブルーバックライト付き液晶ディスプレイ、 調光可能
AC 電源入力	100～240 V AC、50～60 Hz
AC 消費電力	0.8～0.5 A
冷却	パッシブ
安全等級	I
動作環境温度	0～40°C
外形寸法 (幅×高さ×奥行き)	414×339×484 mm
重量 (本体)	14.9 kg
重量 (梱包込み)	18.4 kg
キャビネット素材	15 mm 樺合板
キャビネット塗装	高耐久性ラッカー
色	黒 (RAL 9005、ジェットブラック)
グリル	鉄製、パウダーコート塗装、 アコースティックフォーム内張り
ポールマウントアダプター	1
ハンドル	キャリーバーハンドル×1、 くぼみ型グリップ×2

9.1

ブロック図



9.2

周波数特性

AXM 12A
(dB) レベル、1/3オクターブスムージング

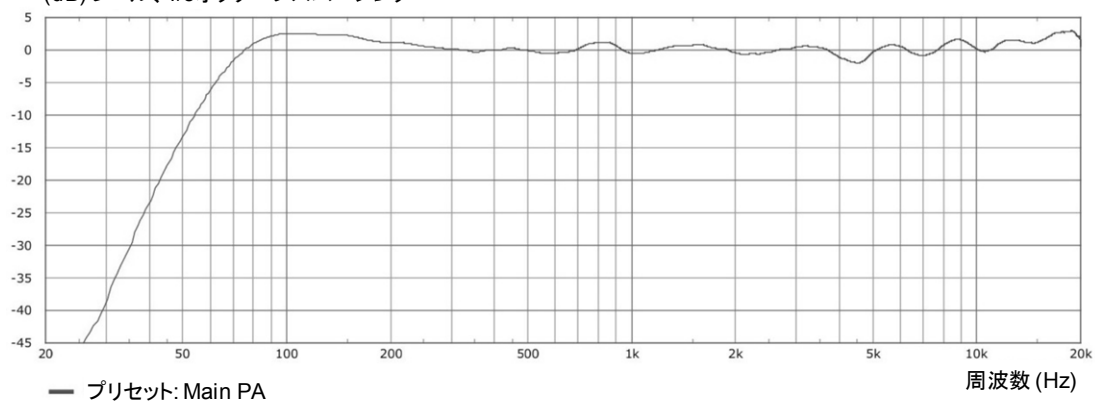


図9.1: 周波数特性 (プリセット: Main PA)

AXM 12A
(dB) レベル、1/3オクターブスムージング、フロアで測定、マイク距離1.7 m

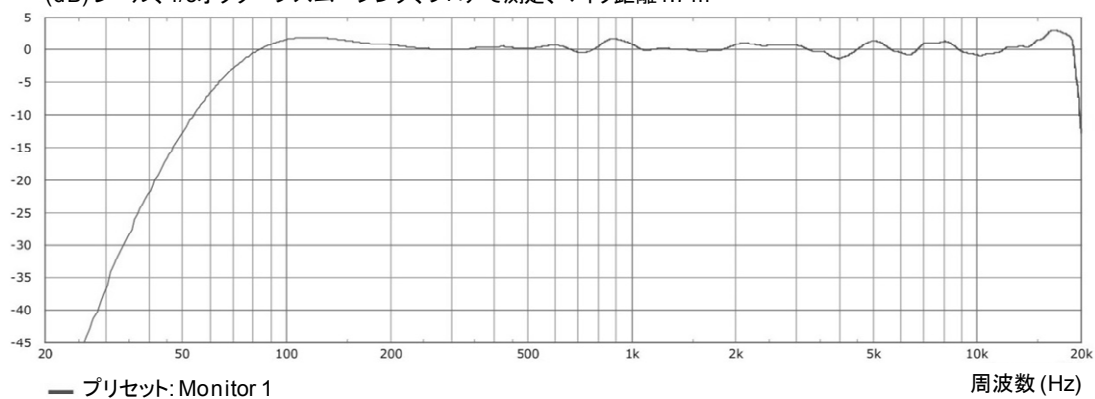
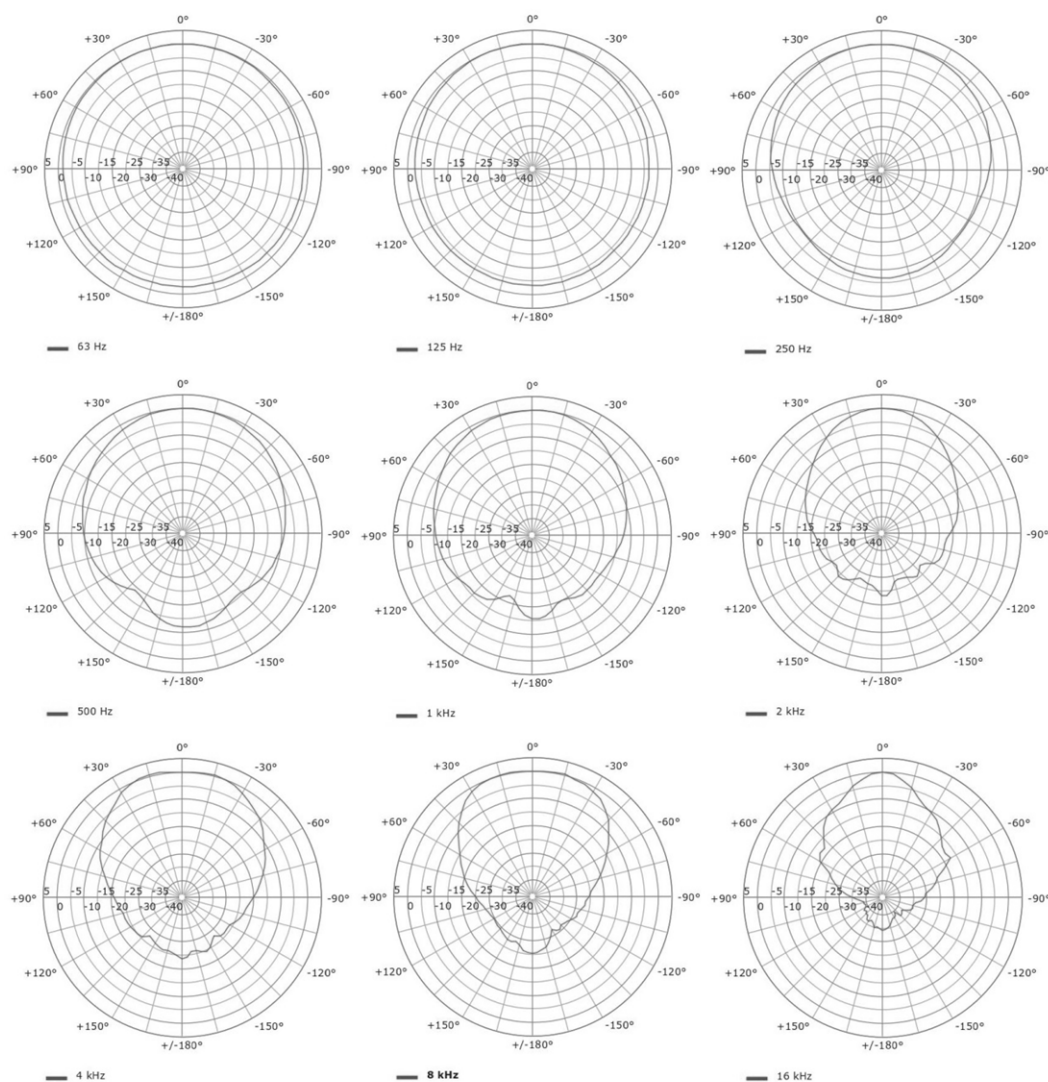


図9.2: 周波数特性 (プリセット: Monitor 1)

9.3

指向性

水平指向性



AXM 12A

(単位 = 角度 " ° ") 水平方向、1/3オクターブスムージングレベル

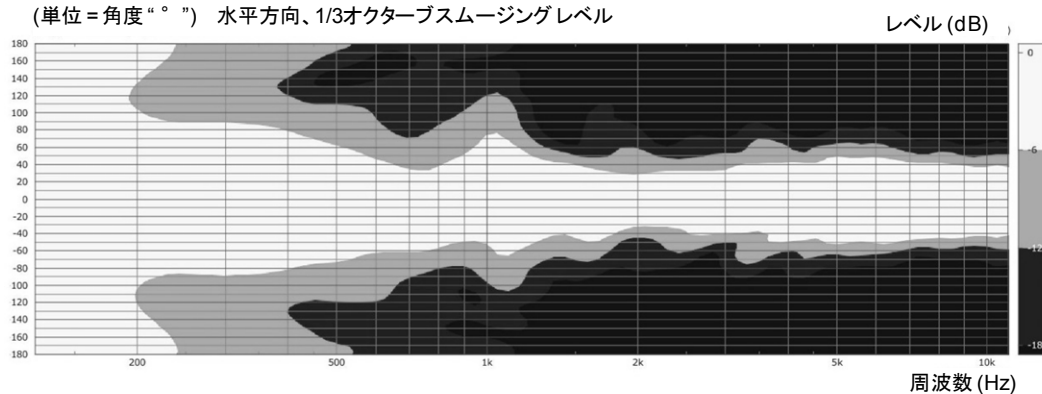
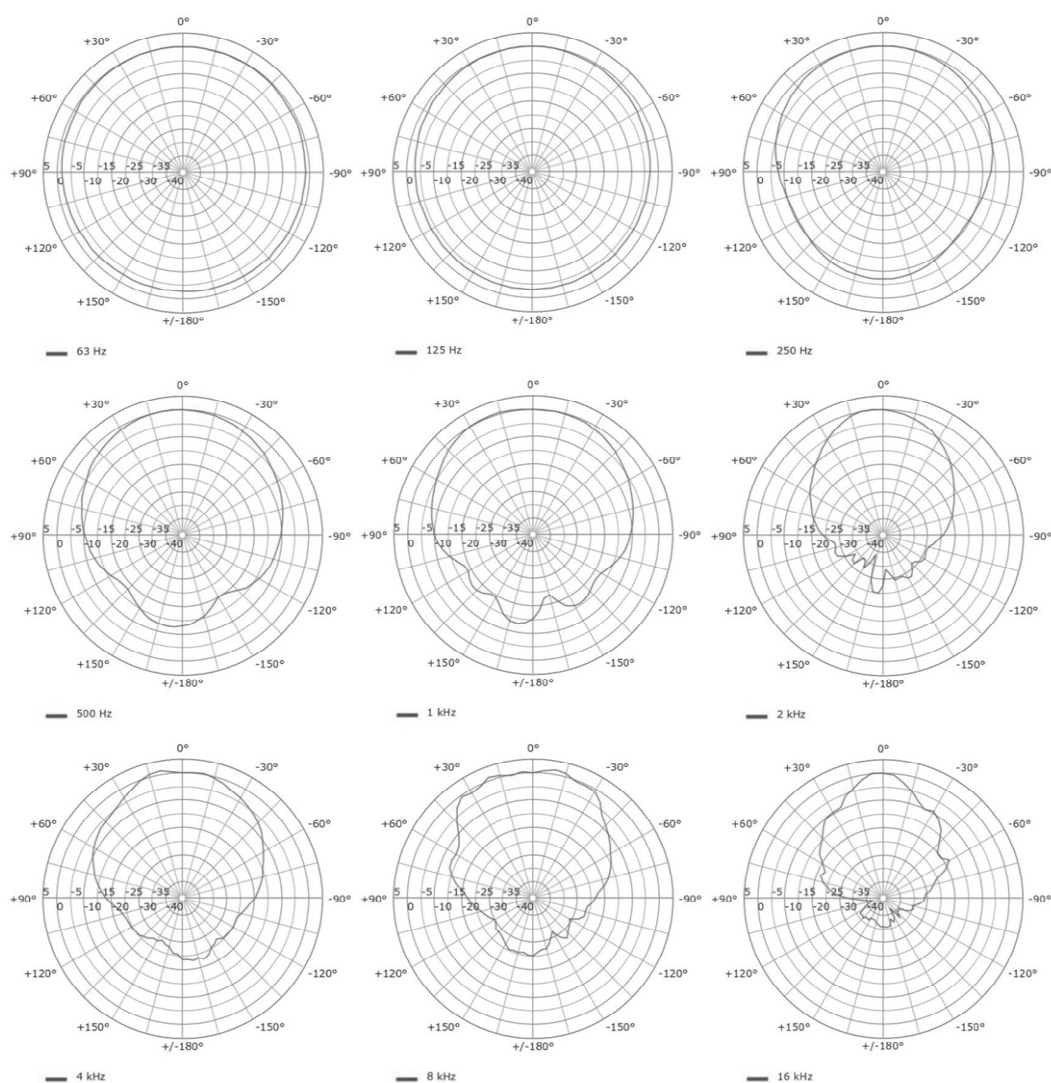


図9.3: 水平指向性プロット

垂直指向性



AXM 12A
(単位 = 角度 "°") 垂直方向、1/3オクターブスムージング

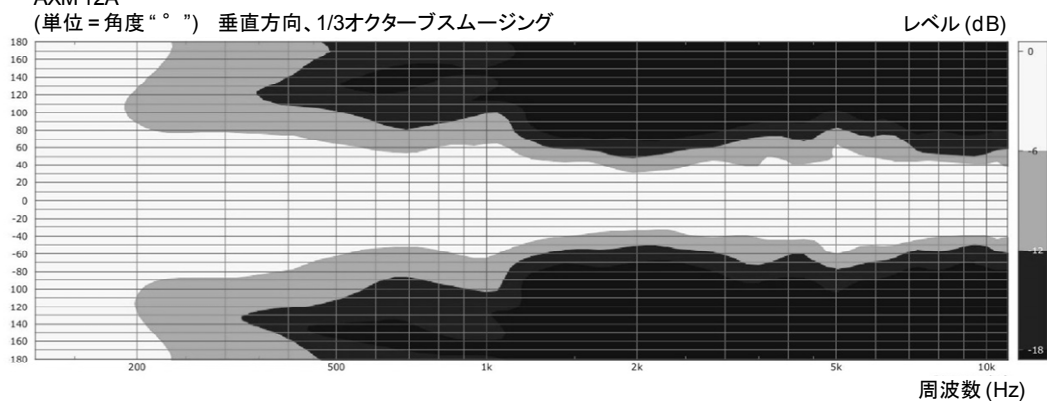
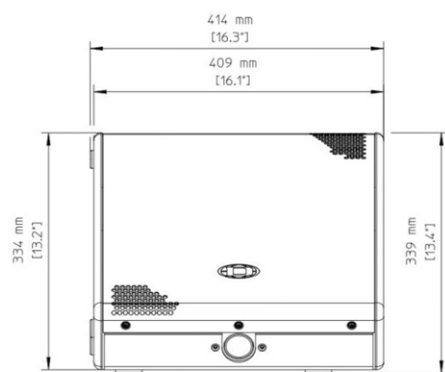
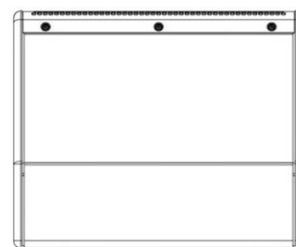


図9.4: 垂直指向性プロット

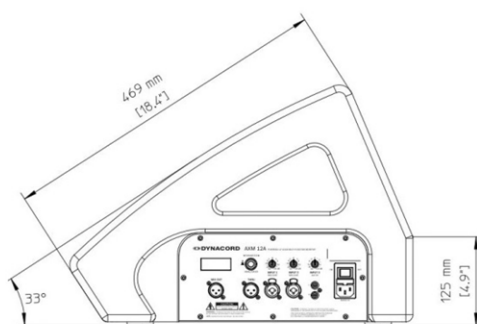
9.4 寸法



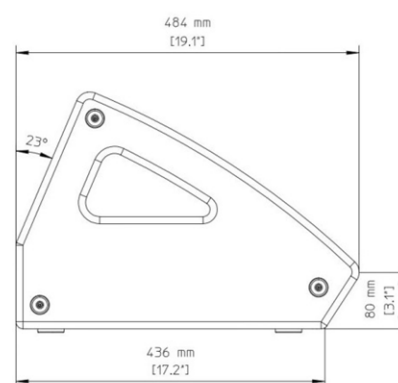
FRONT VIEW



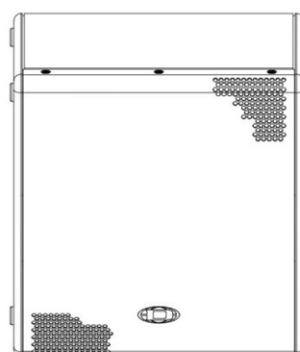
REAR VIEW



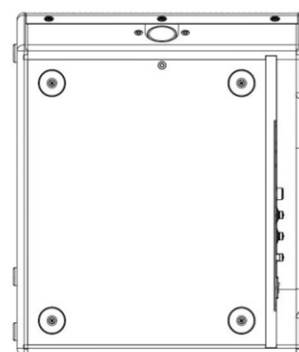
SIDE RIGHT



SIDE LEFT



TOP VIEW



BOTTOM VIEW

10

付録

10.1

システム例

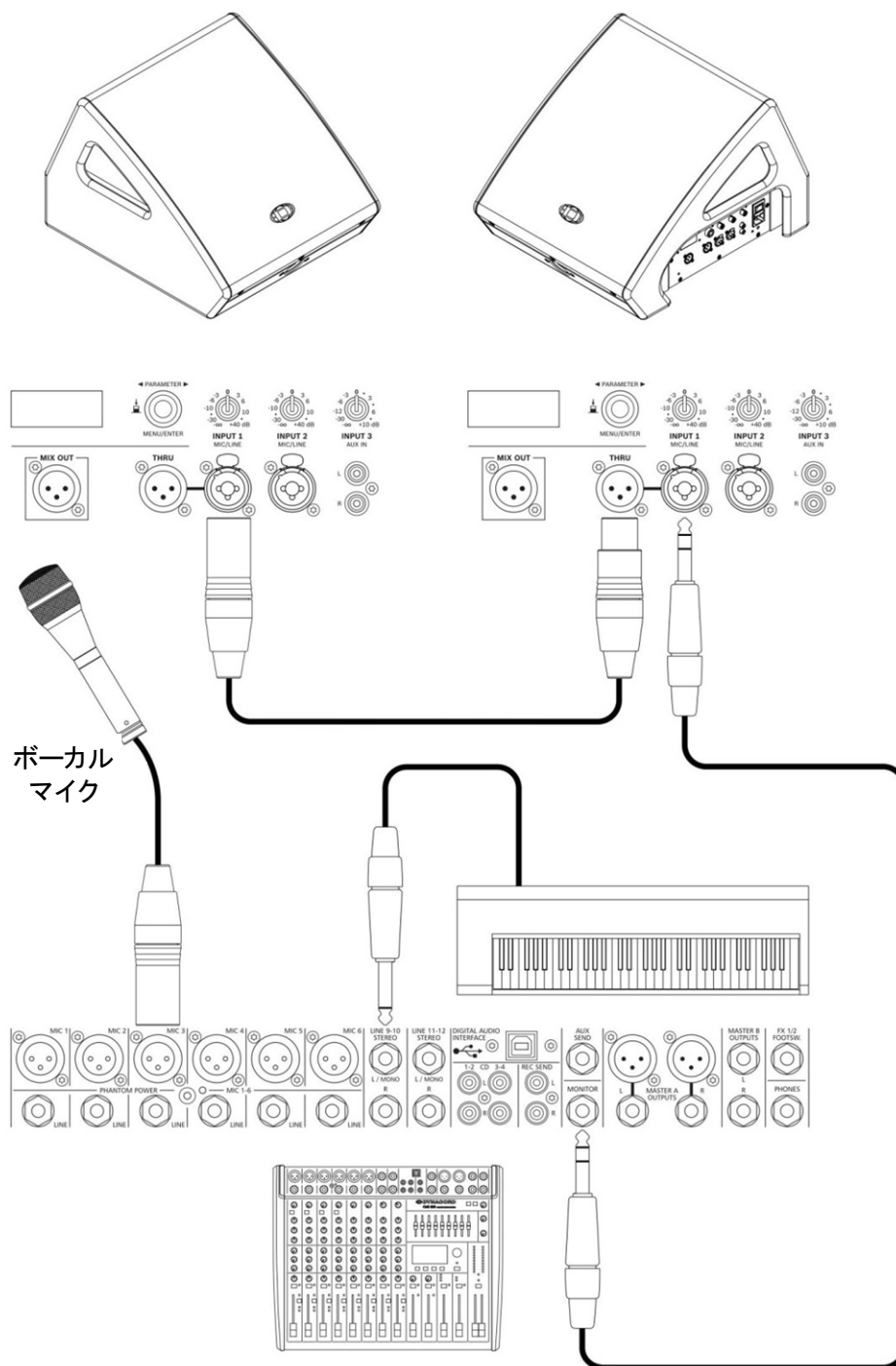


図10.1: 2台のAXM 12AをCMSミキサーに接続したモニターの例

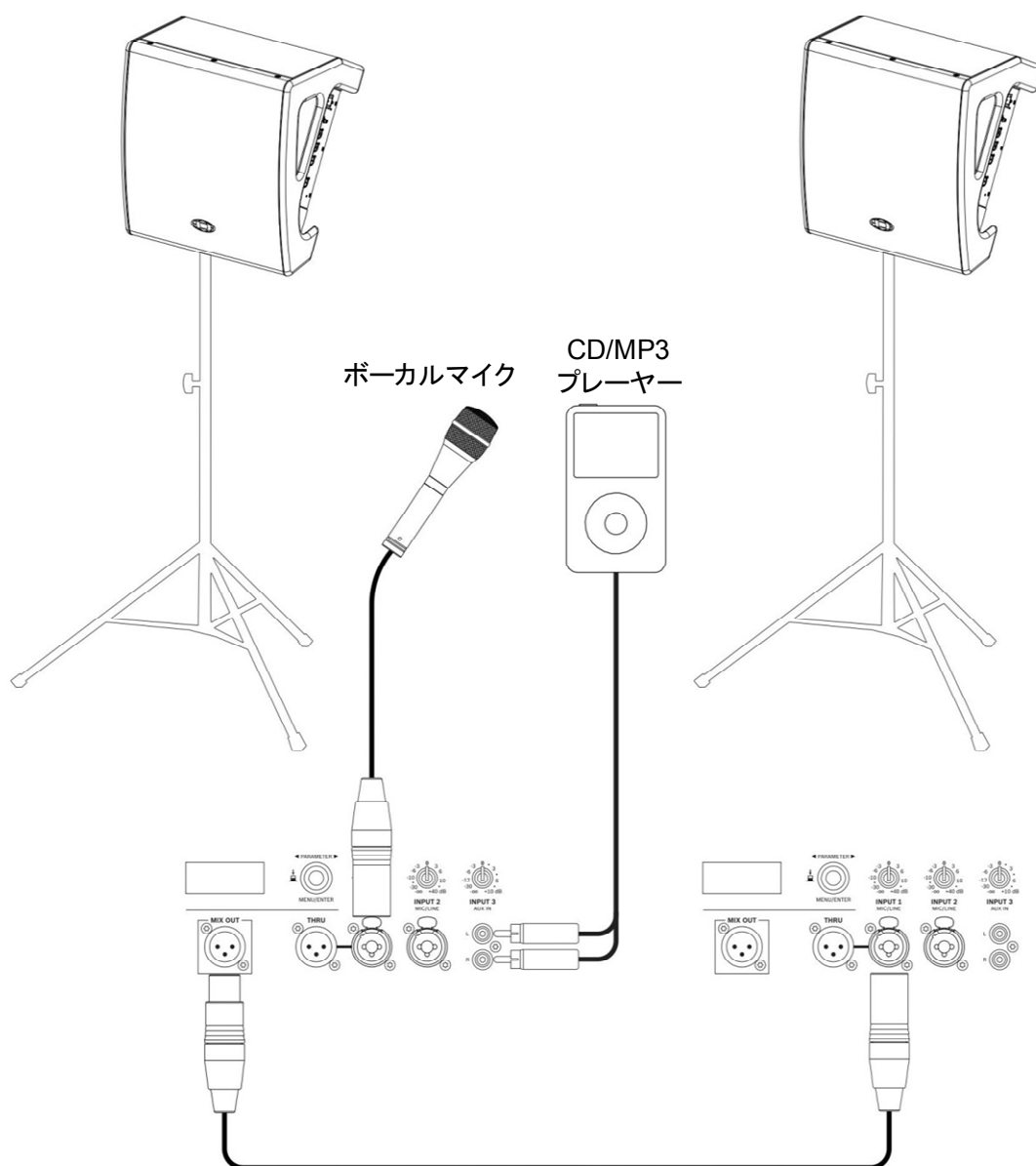


図10.2: 三脚を使用したステレオプレイバックとマイクロホンの例

左のAXM 12Aのメニュー項目「MIX OUT」をRに設定することにより、左 (L) 信号のみが左のAXM 12Aから再生されます。右 (R) 信号はMIX OUTからの出力になり、右のAXM 12Aから再生されます。マイクロホン信号は、両方のスピーカーから再生されます。

● お問い合わせ先

ボッシュセキュリティシステムズ株式会社

〒100-0014 東京都千代田区永田町2-13-1 ボッシュビル赤坂9F

Tel. 03-5485-4427 Fax. 03-3507-4422 www.boschsecurity-jp.net

